



**2040年に介護難民を  
出さない取り組みを**  
中土井 かおる (みらい)



**問**／2040年に県内では約四千人の介護職が不足すると言われている。デジタル化の推進で人材不足解消が見込めるとの予測があるが、デジタル化の導入が進まない小規模事業所に対して市で支援ができないか。

**答**／県の補助金制度の情報提供をはじめ、市としての支援も検討していく。



**包括的性教育の推進を！**

**問**／「国際セクシュアリティ教育ガイドダンス」による包括的性教育は人権教育であり、「幸せ」を目指すものである。学校で行う健康教育や道徳教育、人権教育は、局所的な教育になっている。まず教員にプログラムを受講してほしい。

**答**／性教育は国の動向を見ながら進めていく方針である。包括的性教育を教員が学ぶ機会についても考えていきたい。

**障がいのある人の工賃アップの取り組みは？**

**問**／厚生労働省の「工賃向上ガイドブック」では厳しい経営的視点が提案されている。民間では近年、高い工賃の施設も増えてきた。経営のコンサル等の支援が必要ではないか。

**答**／民間の障害者就労施設は増加傾向。市としても好事例の紹介等、支援を検討していきたい。



**こども・若者の視点に  
立った居場所づくり**  
ストラットン恵美子(久比岐野)



**問**／学校や家以外のオープンアクセスの施設「ユースセンター」は、子どもの自己肯定感や自己有用感を高めWell-beingを満たす効果も期待できる。当市も導入してはどうか。

**答**／直江津学びの交流館や春日謙信交流館、オーレンプラザなどは、中高生が仲間と集い、学習や交流に利用している。また24時間対応の電話相談「子どもほっとライン」など、心の居場所の体制も整えており、導入は考えていない。

**上越市で輝く女性たちを応援したい！**

**問**／起業、創業を考える女性のための、子育て等家庭環境に即した支援拠点を作るべきでは。

**答**／令和5年度に女性起業家創出事業を開始し、情報発信や相談窓口を開設した。起業相談を行う施設は、スタートアップ拠点としての活用も図られており、提案の支援拠点設置は考えていない。

**コミュニケーションでできる英語教育のすすめ**

**問**／英語の学習指導方法「5ラウンドシステム」を当市でも取り入れてはどうか。

**答**／効果的な指導方法の一つとして、授業改善の視点とするなど、子どものコミュニケーションを図る資質・能力の育成に努めていく。

※ユースセンターとは、中高生の家庭でも学校でもない第三の居場所として、近年全国に広まっている。  
※5ラウンドシステムとは、一年間に教科書を5回繰り返し返す英語指導方法



**予約型バスを拡大し、  
格安で運行を**  
本山 正人 (みらい)



**問**／安塚区と牧区で運行している予約型バスの運賃は一律200円だが、運行区域を広げ、近隣の区への運賃も格安にできないか。

**答**／中山間地域の市民の利用しやすい移動手段として、令和6年4月に浦川原区と大島区に導入する。さらに、令和7年度は板倉区、令和8年度は名立区、令和9年度は吉川区と金谷区への導入を計画している。1乗車200円で、隣接する区を乗り継ぐ場合は400円となる予定である。



**市道の修繕整備の優先順位と費用は？**

**問**／地域の要望で舗装道路の欠損箇所を通報してもなかなか修繕してもらえない。優先順位はどのように設定しているのか。

**答**／委託業者や職員が定期的に巡回し、緊急性の高い損傷は速やかに修繕している。大規模な修繕は、通学路やバス路線の指定有無など優先評価項目により評価を行い、評価結果に基づき計画的に修繕している。

**問**／多雪地域では、重い除雪機械が頻繁に通行するため損傷も多い。春先の排雪費用の一部を修復費用に充てられないか。

**答**／排雪作業の費用は国の補助金を活用しており、道路修復への使用は補助金の目的外利用となるため困難である。